

宝永3年（1706）8月5日、武具奉行の大月市左衛門と稲垣武兵衛は、城附きの武具である長柄を納めていた二之丸の昇櫓が破損しているため、長柄を他の櫓に入れ替えた方が良いのではないかと、大目付の藤本十兵衛に申し出ました。十兵衛は御用番（家老や年寄などの重臣）にその事を伝え、御用所で相談が行われました。その結果、御城代の渥美弾正から武具奉行が空いている他の櫓を探して、入れ替えをするよう指示があったので、十兵衛は武具奉行の2人に申し渡しました。そして、近くの肘櫓に移し替えることになったのですが、多数の長柄を収納するための鑓掛けを肘櫓に取り付けなければならぬので、作事奉行の山野善大夫にその旨が伝えられ、翌6日には、昇櫓の長柄は肘櫓に移し替えられました。

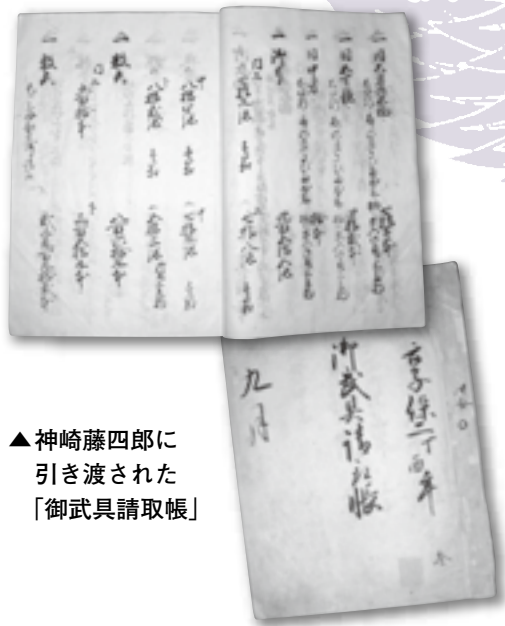
これに先立つ6月16日には、武具の土用干し（小暑から立秋までの暑い盛りに虫干しをすること）が例年の通りに実施されることとなり、6月19日から始めるように、武具奉行の2人に命じられ、先手組から足軽5人と中間6人が配下として与えられました。

彼らは、この時に昇櫓の破損状況を確認して、長柄の入れ替えを提案したものと思われれます。ここで、昇櫓の修理について触れていないのは、担当が違うために、差し出がましい行為を避けたものと考えられます。

松平家が津山城を受け取った時点で、津山城の建物は全体に破損が進んでおり、その後、財政担当である勘定方の日記には、常に城内の修理が記録されているような状況でした。

津山城百聞録

～城付き長柄の入れ替え～



▲神崎藤四郎に引き渡された「御武具請取帳」

そのため、家宝として特別に厳重な管理の下にある、藩主所用の甲冑や宝剣などの武具類を別にすれば、城内に保管されている大量の武具や非常用の食料などは、その多くが傷んでいました。こうした武具の管理は、代々の武具奉行が管理台帳を引き継ぎしながら、行われていたのですが、享保2年（1717）9月に、栗田辰右衛門と鈴木弥三右衛門から神崎藤四郎に引き渡された武具の台帳となる「御武具請取帳」では、その多くの武具に「破損」用不立物（ようたたざるもの）の注記が付けられていました。

安永6年（1777）7月5日の「国元日記」の記事によれば、弓櫓に保管されていた矢500本入一箱のうち、450本が雨漏りで使えなくなっていました。城内の武具管理のずさんさがかがわれるのですが、そうかといって担当の武具奉行が罰せられた様子も見られません。平和な時代の証しと見るべきなのでしょう。

5月中のひとの動き

人口	110,607人	(前月比+24)
男	52,764人	(同+2)
女	57,843人	(同+22)
世帯	43,589世帯	(同+59)
転入	315人	転出 284人
出生	100人	死亡 107人

(6月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

つ・ぶ・や・き

編集室

「地球の寿命は100億年くらい。人間が100歳まで生きたとしても、その1億分の1。1年に例えたら人間の命なんてたったの0.3秒だよ」とアマチュア天文家の多胡さん。一瞬間を大切に生きよう。(和)

戦争中の兵士に戦争が終わったら何をしたいかと聞いたところ、「音楽を聴きたい」との回答が多かったそうです。国際総合音楽祭を開催できる津山は平和で自由。ぜひ会場に足を運んで、心の安らぎを取り戻してください。(2)

津山出身の坂本雅幸さんが、世界的和太鼓グループ「鼓童」の一員として凱旋。満員の津山文化センターで1,200人を前に最高の演舞を見せてくれました。音楽都市津山を世に広める新星がまた1つ生まれました。そう確信しました。(X)



編集・発行 (毎月10日発行)
津山市企画部市長公室 (市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

